

## 問 農業振興の推進状況は

### 答 地産地消推進の取り組みを継続



光風会 志保 議員  
むらかみ 村上

**問** 『東海村農業振興計画』策定から9年を迎えるが現在までの達成状況は。

**答** ファーマーズマーケット「にじのなか」やスーパード地産地消の取り組みを推進し、高い評価を得ている。

**問** 国の「みどりの食料システム戦略」に関連し、「振興計画」に基づき行われている取り組みは。

**答** 村においては「環境にやさしい農産物栽培奨励補助事業」を展開し、県基準農薬の半分以下で農産物を栽培する農家に対し補助金を交付している。



ファーマーズマーケットにじのなか

**問** 「にじのなか」とのさらなる連携の可能性は。

**答** 出荷手数料の一部補助により地産地消を推進するとともに、「農産物栽培セミナー」を継続し高品質な農産物の出荷に努める。

**問** 「にじのなか」の駐車場出入口付近の渋滞や事故の危険性に対する村の働きかけは。

**答** 県道の交通状況や場内駐車場の状況を注視しつつ、JA常陸と協議のうえ適宜対応する。

## 問 返礼品のさらなる魅力アップを

### 答 可能な限り寄付額増に取り組む



新政とうかい 士郎 議員  
ささじま 笹嶋

**問** 令和5年度のふるさと納税による住民税の減少および経費合計と寄付額との差は、約7827万円の赤字である。返礼品の主品目は、サツマイモ関係で約9割を占めている。赤字解消のため、米などその他の返礼品の目玉を考えているか。

**答** 米の返礼品は、生産量が県全体の約0.5%程度であるため、主力化は難しい。すでに制度の趣旨に賛同する事業者には、返礼品の登録をお願いしている。可能な限り寄付額を増やす取り組みをしており、目玉の育成は



ふるさと納税の返礼品で人気のあるお米

厳しいと考える。

**問** 他の自治体では、地域で発電する電気も返礼品としている。返礼品電力は、再生可能エネルギーが対象となっており、村内にも小規模であるが太陽光発電施設がある。検討してみても。

**答** 電気を返礼品として扱うには、小売電気事業者と発電事業者の間で「特定卸供給契約」を結ぶことや「トラッキング付非化石証書」発行など、村が取り扱うには、簡単ではないと考える。